〔平成２９(2017)年２月１０日〕

日本経済新聞

遺伝子解析 東大が拠点

がん治療研究

東京大学は9日、最先端の解析装置で患者の遺伝子を網羅的に調べて的確な診断や治療につなげる研究を始めると発表した。がんや難病について、遺伝子を解析する拠点を設け、原因となる遺伝子の異常を見つけるほか、治療法の開発につなげる。解析した遺伝情報を使って効果的な治療薬を調べるデータベースの構築も進める。

3月に肺がんと肉腫で解析を始め、2017年度以降から他の種類のがんにも広げる。1年に数百人の患者から、がん細胞と正常な血液細胞を取り出して解析する。遺伝情報に基づいて既存の治療薬が使えないかなどを割り出す。

患者が少ない希少疾患については、1年に600人の患者の協力を得て遺伝子を解析する計画。解析結果から病名を特定できるのは3割ほどのため、新たな原因遺伝子の特定を目指す。手の震えなどの症状が表れる脊髄小脳変性症といった難病の診断に活用する。